

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 39～46 節 ＞

1 二つのテーマ。イエス様の祈りと弟子たちへの誘惑。

二つのことを学びます。イエス様の祈りから教えられること(41-44)と、弟子たちを襲う誘惑への対処方法(40, 45-46)です。

2 イエス様の祈りに倣う。何を？ ヘブライ人への手紙 5:7-8 から。

「どのように祈ればいいのか」と質問を受けることがあります。それは「祈りとは何か」ということと深く関係しています。ここでイエス様は、「父よ、御心なら、この杯を私から取りのけて下さい。しかし、私の願いではなく、御心のままに行ってください(41)、と祈られています。① まず自分の願いを神様に願う。しかしそれだけではなく、② 神様の御心がどこにあるかを尋ねておられます。そして最後は、③神様の御心を信頼して全てを神様に委ねておられます。ということは、普通、祈りとは私たちの願いを神様がかなえて下さるために行う行為と考えますが、むしろ、神様に向かい、神様がどのようなお方かを思い巡らす行為、そのような時間を過ごして「この方にお委ねしよう、それでいいのだ」と覚え直すことができるようになるための行為、あるいはそのために過ごす時間を確保する行為と言えるでしょう。この時のイエス様の祈りについてはヘブライ人への手紙 5:7-8 が深く解き明かし、主はこの時に「神様への畏れ敬いと従順」を学ばれた、と語っています。

3 「誘惑」とは何か？ それに陥らない方法は祈ること。

この箇所での「誘惑に陥る」(40, 46)は眠ってしまうことを言っています。そして、イエス様はその誘惑に陥らないために「祈りなさい」と2度繰り返されて強調されています(40, 46)。よって、ここでも、大事なことはやはり「祈りの重要さ」でしょう。この時の弟子たちは「悲しみの果てに寝込んで」(45)しまいました。しかし、復活の主を知った弟子たちに訪れたのは、監獄に入れられても、真夜中になっても眠らず、賛美の歌を歌い、神に祈る姿でした(使徒言行録 16:25)。讚美の歌を歌う、祈る、これらは全て神様に向かって行う行為であり、危機の中で彼らが行ったことは、まず神様に向かい、神様のことを思い巡らし、自分たちが立つ立ち処の確かさを覚え直すことだったのです。自分中心から神様中心に 180 度方向転換して新しい生き方をし出した者の強さをここに見ることができるのではないのでしょうか。